



しんなせ
眞名瀬町内会 (葉山町)

コミュニケーションの土台を作り裾野を広げる

養所なども多く、避暑地・避寒地として人気の高い地域です。この眞名瀬の海岸に毎朝6時半、ラジオ体操の音楽が響いています。夏休みの最盛期には子どもたちはもちろん、別荘や保養所の滞在者が加わり、70～80人になることも。近隣の地区から自転車で駆けつける人も多く参加されています。毎日同じ時間に実施することで多くの人の目に付き、口コミで少しずつ広がっています。

その輪の中心にいるのが、町内会長の加藤 清さん。この取組が始まったのは、2014年7月22日だと話してくれました。加藤さんを含めた4人交代でラジオを持ってくる当番を担うことで、無理なく続けていきます。

■**始まったきっかけはオリンピック**
眞名瀬でも子ども会は、夏休みの一定の期間ラジオ体操を行っていました。町内会がそれに便乗したのは、2014年3月



一言アドバイス

みんなに生まれ育った地域への恩返しをする気持ちがあれば、コミュニティになっていく。



眞名瀬町内会
会長 加藤 清さん

成功のコツ

- ・毎日続けることで地域との関係づくり
- ・祭りやイベントを通じた町内の他の組織との連携

を広げる

に県の教育委員会から東京五輪の招致決定を受けて、体を動かすことを推奨する通知が来たのがきっかけです。2014年7月から夏休み期間毎日やろうと、町内に回覧を回して実施しましたが、実際にやってみると、参加の有無が安否確認になるとわかりました。来ない人には様子を覗に行き声掛けをするなど気遣いができます。イベントなどと違って、毎日やることでコミュニケーションをとる上

で有効だと気がついたので。これが地域での顔が見える関係づくりに役立ちました。

■**神社のお祭りでコミュニティの裾野を広げる**
眞名瀬には近くに神社が二つあり、年2回のお祭りがあります。地元のお祭りは、地域の人たちをつなぐ絶好の機会です。加藤会長はこのチャンスを逃がしません。ラジオ体操をきっかけに子ども会とも協力関係ができていて、子ども神輿の組み立てやお祭りでの船を賑く催しも子ども会と協力して取り組んでいきます。若者が神輿を担ぐ会もあり、

この3者が連携する体制ができています。それは祭りだけでなく、災害対策としての炊き出し訓練などにも活かされています。

毎日のラジオ体操でコミュニケーションの土台を作り、お祭りや防災訓練で人と人とのつながりの裾野を広げる、そんなコミュニティが小さな漁港に広がっています。





葉山芸術祭実行委員会（葉山町）

アートによるコミュニケーションイベントを

■アートと地域のコミュニケーション
葉山をアートで盛り上げようと、町内外の芸術関係者有志が実行委員会を立ち上げ、1993年から27年間、毎年春に「葉山芸術祭」を開催しています。委員数が、100を超える参加者と企業・団体との調整に尽力し、町内各地で120件以上のイベントが約2週間にわたって行われます。「アートと地域とのコミュニケーション」を考えながら開催している葉山芸術祭は、地域全

体巻き込む一大コミュニケーションの場となっており、町内外から毎年述べ2万人もの方が来場しています。これほどのイベントが7、8名の住民により3世代にわたって続けられているのは、驚くべきことです。

■上のない緩やかな雰囲気
芸術祭が始まった頃は、シニアの建築家を中心で「アカデミックな音楽と芸術を葉山で」という内容でした。それが開催4年目頃から「プロも素人も同

じ立場で参加する」という現在の方針に変わりました。その頃、実行委員会に加わったのが松澤利親さん。起業後に声をかけられたことがきっかけでした。「緩やかな雰囲気、みんなが対等に納得いくまで話し合いをする、その伝統は今でも続いています」と話す松澤さん。少人数のチームで芸術祭を続けるポイントは、「自分が楽しむために背伸びし過ぎないこと」です。そのために、各自責任を持てる



陰で支える

■円滑な世代交代
第二世代にあたる松澤さんが、第一世代の方々から事務局を委ねられることになったと、しっかりと議論しながら何年もかけて少しずつ引継ぎが行われました。しかも、第一世代の方は、身を引いてからは求められてアドバイスする以外、全て任せていたとのこと。松澤さんは「こうした引継ぎを体験したことが大事。いざなり完

一言アドバイス
引継ぎにあたっては、「見える化」と「仕組み化」が大切。



成功のコツ

- ・何年もかけて引継ぎを行い、その後は身を引いて次の世代に委ねる
- ・活動メンバー構成は常に多様性を重視
- ・企画運営のお金と安全は注意深く慎重に

葉山芸術祭実行委員のみなさんと事務局長さん
(後列右から2番目が松澤利親さん)

全に引き継ぐのではなく、何年も前から地域の人的ネットワークを共有し世代交代を意識することが鍵です。」と話します。

また、長年活動を続けていくうちに「世代間の価値観の差」という課題に直面したそうですがこれについても世代交代と同様で、時間を掛けて話し合い、委ねるべきものは次の世代に委ねることが重要とのこと。その中で、新たな仲間を探すべきは、世代交代とともに委員会が様々な角度で物事を考えられるよう、メンバーの多様性を常に意識しているそうです。

「緩やかな雰囲気にあっても安全とお金だけは注意深く対応しなければなりません」と話す松澤さん。この二つは失敗すると取り返しがつかないもので、これがきっかけで活動がバラバラになってしまいうこともありますが、慎重に取り組むことが重要と気を引締めます。

第一世代から第二世代へ、そして今第三世代へ引き継がれつつある葉山芸術祭。実行部隊の委員会では、これからも「アートと地域のコミュニケーション」をテーマに多くの人を魅了していくと意気込んでいます。